

# 好意伝達表現の男女差に関する考察

—告白場面に見られる発話機能を中心に—

金智媛\*

(e-mail : dudmdi@naver.com)

## < 목 차 >

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1.はじめに              | 4. 結果及び考察              |
| 2. 先行研究             | 4.1. 告白場面における発話機能の使用様相 |
| 3. 研究方法             | 4.2. 用例分析              |
| 3.1. 告白の定義及び告白場面の範囲 | 4.2.1. 単純型             |
| 3.2. 分析資料及び分析対象     | 4.2.2. 機能型             |
| 3.3. 分析方法           | 5. おわりに                |
| 3.3.1. 告白の発話機能      |                        |
| 3.3.2. 分析単位及び文字化の例  |                        |

キーワード：恋愛(dating relationship), 告白(confession of love), 男女差(gender differences), 好意伝達(showing affection), ジェンダー(gender), 発話機能(speech functions)

## 1.はじめに

大辞林(2006)によると「恋愛」とは「男女が恋慕うこと。また、その感情。」と定義されている。最近では映画やドラマ、テレビ番組、恋愛マニュアル本などの各種の媒体だけでなく、日常でも恋愛が語られており、特に恋愛は青年にとって大きな関心事のひとつである(松井1990、栗林2002)。また、現代社会における恋愛は、「結婚は恋愛の延長線」といった考え方で、幸せな家庭を築くための過程として捉えられているものの、必ずしも結婚や生殖の目的というより、自己省察や成長につながる経験となるものとしても意味付けられている<sup>1)</sup>。このような自由恋愛が可能になった今日、恋愛を始めるきっかけは「告白」であるこ

\* 고려대학교, 박사과정, 일본어학

1) 김정영외(2014)は今日若い男女の恋愛が持つ意味は、自分の欲望や感情を相手と調整する技術を習得する経

とが様々な研究で報告されている(山田1991、石川1994)。恋愛における告白は相手に気持ちや伝え、相手の心を動かし、二人の関係が転換しうる重要な表現行為であり、Barlow(1977)が「異性との関係開始」を異性関係スキルの一つの側面として指摘していることから、恋愛において告白が重要な役割をしていることが窺える。さらに、樋口他(2001)が恋愛における「告白」を「承諾獲得方略<sup>2)</sup>」として捉えているように、告白は相手との関係の変化を目的とし、相手に自分の望みを受け入れてもらうことを求めているため、告白発話には様々な言語的ストラテジーが用いられると考えられる。

そこで本稿は、日本のドラマや映画に見られる男女が対面する告白場面において、どのような表現を用いて相手に好意を伝えるか、好意伝達のストラテジーに性差が表れるかを明らかにすることを目的とする。その方法として、恋愛の初期段階における告白に用いられる発話を機能別に分類し、用例分析を通して男女の告白発話の特徴を考察する。

## 2. 先行研究

恋愛における告白を言語学的な観点から分析した研究は、アンケート調査を用いて告白の言語表現を分類した研究(樋口他2001、関・李2013)と、ドラマを活用し、告白の発話類型を分析した研究(元智恩2017、迫田他2019)が挙げられる。

樋口他(2001)では、アンケート調査で収集した告白の中で「付き合う」ことを前提としている19種類の表現を「言語的方策」として分類し、それらを「単純型」、「願望型」、「理屈型」と分けている<sup>3)</sup>。その結果、状況や性別を問わず、「単純型」の告白を用いた場合にもっとも関係が発展しやすいと述べている。関・李(2013)はアンケート調査の結果から告白を分析した。表現方略要素を「特定表現(好意表現や交際申請表現)」、「機能表現(命令・願望・依頼・状況説明・にごしなど)」、「語彙表現(程度・呼称など)」に分類し、分析した結果「好意表明表現」は女性が、「交際申請表

験であり、成功的な恋愛とは個人の成長に肯定的に寄与するか否かで判断されると述べている。また、高坂(2009)は異性との恋愛は青年の人格発達や日常生活に強く影響していると述べている。

2) 「承諾獲得方略(Compliance Gaining Strategy)」は「個人が自分の望む行動を他者から引き出す際に用いる言語的影響手段のこと」であり、樋口他(2001)は告白にも様々な方策が存在すると述べている。

3) 樋口他(2001)は「好きです」のような単純に好意を伝える表現を「単純型」、「幸せにするから」などの交際を懇願する告白を「懇願型」、「笑ってるところが好き」など、相手の魅力を説明しながら行う告白を「理屈型」と分類している。

現」は男性が多く使用しており、機能方略においては「状況説明表現」は女性が、「依頼表現」は男性が多く使用していたことを明らかにした。このことから女性は自分の感情や状況を訴える表現方略を好むが、男性は感情や状況よりも関係重視の傾向にあると指摘している。

元智恩(2017)は、恋愛中に関係を回復するために用いられる愛情表現も「告白」とみなし、日韓の告白の言語行動を比較するため、両国のドラマをリメイクした資料を分析した。その結果、韓国では相手を話し手の領域に引き寄せることにより、相手との距離を縮める傾向があるが、日本では告白場面で相手の領域を侵害せず、相手と距離を置く傾向があると述べている。迫田他(2019)は、男性の告白の発話類型において日韓で違いが見られるか考察するため、両国のドラマや映画の告白シーンを分析した。告白の発話類型を「明示」と「非明示」に分けた結果、日韓の告白はともに明示的に行われたが、日本人男性は感情を伝える「好意伝達」を多用し、韓国人男性は相手との関係の変化を試みる「関係転換」と「好意伝達」の両方を使用する傾向にあったと述べている。

このように、告白や性差に関する様々な研究がなされているが、恋愛の初期段階における告白談話に関して性差に注目した研究は管見の限りみられない。元智恩(2017)や迫田他(2019)はドラマを活用し、告白における日韓の発話類型を分析しているが、異文化間の違いを中心に考察しており、性差には触れていない。また、元智恩(2017)は恋愛中の愛情表現も告白とみなしており、本稿とは分析状況が異なっている。交際を開始するきっかけとなる恋愛の初期段階における告白発話を分析することは有意義であると言える。

そこで本稿は、日本のテレビドラマ及び映画の恋愛の初期段階における告白場面で、どのような言語的ストラテジーや表現の特徴が見られるかについて男女別に考察する。

### 3. 研究方法

#### 3.1. 告白の定義及び告白場面の範囲

栗林(2002)は、恋愛における告白を「恋愛関係の形成を目的として、特定の相手に自分の好意を伝達する行為」と定義しており、メイナード(2001)は、「好きです」など定番の表現を告白の言葉として位置付けている。また、樋口他(2001)は「付き合ってください」が入っているもののみを「告白」とみなしているが、元智恩(2017)は、恋人同士になる前の

段階における愛情表現だけでなく、恋愛中であるが喧嘩や葛藤で疎遠になった恋愛関係を回復するために用いられる愛情表現も「告白」とみなしている。

このように恋愛における「告白」に関する定義については、研究者によって様々であり、扱われる意味的範囲が異なっていることが分かる。これらを踏まえて本稿における「告白」を、「関係の構築段階<sup>4)</sup>」に進むことを目的とする発話、つまり「相手に自分の好意を受け入れてもらうことで、恋愛関係を開始することを望むために用いる表現」と定義する。さらに「好きな理由や状況などを表す発話や、相手に好きな気持ちを伝えたり交際を申し込んだりする一連の発話が見られる場面」を告白場面として扱う。

### 3.2. 分析資料及び分析対象

本稿は、男女の恋愛物語を主題にした日本のテレビドラマ及び映画から告白場面を抽出し、文字化したものを分析資料とした。

テレビドラマの言葉はひとつの文化としてのメディアディスコースであると指摘されているように(メイナード、2001)、ドラマや映画には文化の様々な面が蓄積されており、当時の時代背景や社会を反映している。さらに、ドラマや映画で発せられるセリフはシナリオ、俳優のアドリブや演技などを通じて完成されるが、このような「役割語<sup>5)</sup>」の要素のあるドラマや映画から発話機能や表現などを究明することで、メディアが伝えていることや視聴者が求めていることなどの現代のジェンダー観が読み取れると考えられる。また、実生活でも起こりうるような様々な場面や談話パターンが現れるため、自然な言語表現を分析できる媒体であると言えよう。

分析資料に関しては、年齢や時代による差を最小限にするため10代後半から30代前半の男女、また、2000年以降の映像資料に限定し、男女が対面する告白場面を選定した。なお、下記のような映像資料は選定基準から外した。

4) Levinger(1983)は関係の親密化過程のモデルとして、対人関係の変化を「A:相手を認識するあるいは知る段階(Awareness of or acquaintance with another person)、B:関係の構築段階(Buildup of an ongoing relationship)、C:持続の段階(Following a mutual commitment to a long-term relationship)、D:崩壊の段階(Deterioration or decline of the interconnections)、E:終焉の段階(Ending of the relationship)」の5段階を想定している。栗林(2017)は「告白」はA段階からB段階へ移行するための手続きとして多々見受けられると指摘している。従って、「A:相手を認識するあるいは知る段階」で行われる告白(合コンやナンパなどの状況で好意を表現する場合)や「C:持続の段階」で行われる告白(恋愛中の愛情表現)などは分析対象としていない。

5) 金水(2003)は、ある特定の言葉遣いを聞くと特定の人物像を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」と提唱した。さらに、役割語は描写のリソースや人物描写に活用されると述べている。

- 1) 非対面(電話やメール、手紙など)での告白
- 2) 合コンなどの初対面で好意を表す場合
- 3) 告白の相手に向けてではなく第三者に告白・公表する場合
- 4) 特殊な状況(契約結婚やお坊さんとの恋愛など)
- 5) 関係の構築を求めている告白(「過去に好きだった」など)
- 6) 告白シーンにおいて、告白された相手に返す肯定的な応答(「実は私も好き」など)
- 7) 翻訳上の問題や独自の文化反映などが起こりうるリメイクドラマ
- 8) 映像の時代設定が2000年以前のもの
- 9) 交際している相手への好意伝達表現

本研究で扱う映像資料及び分析対象は〈表1〉の通りである。

〈表1〉映像資料<sup>6)</sup>

タイトル	分析対象(告白者の情報)
アオハライド(2014) (ア)	吉岡(10代・F) 菊池(10代・M)
赤い糸(2008) (赤)	たかちゃん(10代・M)
いつかこの恋を思い出すと泣いてしまう(2016) (い)	練(20代・M) 音(20代・F) 井吹(20代・M) 晴太(20代・M)
エセ肉食女の恋愛事情(2011) (エ)	まどか(30代・F) 慎吾(30代・M)
カフカカ-こじらせ大人のシェアハウス(2019) (カ)	寺田(20代・F) あかり(20代・F) 長谷(20代・M) 本行(20代・M)
きみはペット(2017) (き)	蓮実(30代・M) 福島(20代・F) 武志(20代・M)
君と100回目の恋(2017) (君1)	陸(20代・M)
君に届け(2010) (君2)	胡桃沢(10代・F) 黒沼(10代・F) 風早(10代・M)
きょうのキラ君(2017) (きょう)	ノニ(10代・F)
恋は雨上がりのように(2018) (恋1)	立花(10代・F)
恋空(2007) (恋2)	優(20代・M)
恋がへたでも生きてます(2017) (恋3)	マサノブ(20代・M) 佳介(20代・M)
恋愛ドラマな恋がしたい〜Bang Ban Love〜(恋4)	わかな(20代・F)
コーヒー&バニラ(2009) (コ)	深見(20代・M)
好きっていいなよ(2014) (好)	大和(10代・M) めい(10代・F) 海(10代・M)
ストロボ・エッジ(2015) (ス)	仁奈子(10代・F) 蓮(10代・M)
四月は君の嘘(2018) (四)	椿(20代・F)
失恋ショコラティエ(2014) (失)	エレナ(20代・F) オリビエ(20代・M)
先生!、、、	響(10代・F)

好きになってもいいですか？(2017) (先)	
センセイ君主(2018) (セ)	佐丸(10代・F)
地味にスゴイ校閲ガール(2016) (地)	幸人(20代・M)
タイヨウのうた(2006) (タ)	孝治(10代・M)
ディア・シスター(2014) (デイ)	萩原(30代・M) 永人(20代・M)
天使の恋(2009) (天)	理央(10代・F)
となりの怪物くん(2018) (と)	吉田(10代・M) 夏目(10代・F)
ナラタージュ(2017) (ナ)	小野(20代・M)
花より男子(2005) (花)	道明寺(10代・M) 類(10代・M)
箱入り息子の恋(2013) (箱)	健太郎(30代・M)
ハニーとクローバー(2006) (ハ)	山田(20代・F) 竹本(20代・M)
ひだまりの場所～初恋～(2010) (ひ)	沙耶(10代・F)
ひるなかの流星(2017) (ひ2)	馬村(10代・M) すずめ(10代・F)
百万円と苦虫女(2008) (百)	中島(20代・M)
ピースオブケイク(2015) (ピ1)	菅原(20代・F)
ピーチガール(2017) (ピ2)	とーじ(10代・M) カイリ(10代・M) もも(10代・F)
ぼくは明日、昨日のきみとデートする(2016) (ぼ1)	南山(20代・M)
僕たちがいた(2012) (ぼ2)	高橋(10代・F)
文学処女(2018) (文)	望月(20代・M) 月城(20代・F)
モテキ(2011) (モ)	るみ子(30代・F) 幸世(20代・M)
ラストシンデレラ(2013) (ラ)	千代子(20代・F)
わたしに運命の恋なんてありえないって思ってた(2016) (わ)	莉子(20代・F)
L et M わたしがあなたを愛する理由、そのほかの物語1(2012) (L1)	真一(30代・M)
L et M わたしがあなたを愛する理由、そのほかの物語2(2012) (L2)	啓(20代・M) 絵瑠(20代・F)

### 3.3. 分析方法

#### 3.3.1. 告白の発話機能

本稿では告白場面においてどのような言語的ストラテジーの特徴などが見られるかについて男女別に考察することとする。

告白に用いられる発話を告白者の表現意図によって発話機能の分類を行ったが、分類に関しては、関・李(2013)の「告白の方略表現」と樋口他(2001)の「告白の言語的方策」を参考にし、本研究のデータに現れた特徴に合わせ修正・加筆した。さらに、メイ

6) ドラマや映画のストーリー上、告白者が複数の人に告白したり2回告白したりする場合は現れたため、「分析対象の数」より「告白場面の数」のほうが多い。

ナード(2001)は「好き」を告白の定番表現であると述べているが、元智恩(2017)は、告白の言語行動は愛や交際を求める告白(直接的な告白)だけではなく、それに随伴される様々な機能を持つ発話(告白の随伴物)から成ると述べている。本稿のデータにおいても必ずしも交際申込み表現を使用しない告白表現も多く見られたため、告白の発話機能を「単純型」と「機能型」に分けて分類した。

〈表2〉告白の発話機能

告白の発話機能		例文
単純型	a.好意伝達：「好きです」など好意を表す表現	・ 俺、えっちゃんのこと好きだよ(地)
	b.交際申し込み：「付き合ってください」などの交際を申し込む表現	・ 付き合おう(い)
機能型	a.理由説明：好きになった理由やどんな点に好意を持ったかなど、好きな理由や告白する理由を述べる表現	・ 店長はすごい人です。本に詳しいし、小説も書けるし(恋1)
	b.状況説明：「告白」に至るまでの心境を述べたり、告白者の心理状態や情意を表したりする表現。	・ 今日この部屋を出るとき、工藤さんが来てくれたらいいなって思ってた(十)
	c.意向確認：相手に許可を求めたり、現在の状況を確認したりしながら相手の意向を問う表現	・ 俺じゃだめかな?(文) ・ 私じゃ恋愛対象になれませんか(ラ)
	d.通告：相手の意向を聞かずに付き合うことを決めてしまう表現	・ あたしが先生の彼女になるよ(天)
	e.願望：願望を表す形の表現を用いながら相手への希望や願望を伝えることで、告白者の望んでいることや相手に望むことなどを明示する表現	・ ももちゃんのそばにいたい(ピ) ・ 俺の彼女になってほしい(君2)
	f.折り合い：相手に妥協を求めることで交渉したり負担を軽減したりするための表現	・ いろんな気持、全部か抱えたまままでいいから(恋2) ・ 答えは今すぐじゃなくていいから(失)
	g.メリット提示：相手に自分の長所をアピールしたり、告白を受け入れた場合相手が得られる利益や特典などを提示したりすることで、好意を受け入れることを促す表現	・ 俺、かなりおすすめだから(ア) ・ 僕が小夏ちゃんの夢を叶えてあげる(い)
	h.要求：依頼や命令表現、文末に命令形などを用い、告白者の要求を受け入れることを促す表現	・ 僕と一緒にいて(い) ・ 俺んとこ来い(恋2)

なお、〈表1〉に提示した映像資料から、前節に提示した告白の定義を基に告白発話

が現れた場面を文字化した。分析資料の詳細は以下〈表3〉のように示す。

〈表3〉 分析資料の詳細

	男性	女性
告白場面の数	40	37
告白の発話機能文の合計 <sup>7)</sup>	120	106
各場面における平均告白の発話機能文の数	3	2.86

男性が告白する場面40件、女性が告白する場面37件を分析した結果、告白の発話機能文の出現の合計は男性120件、女性106件である。さらに、各告白場面当り用いられた平均発話機能文の平均は、男性約3回、女性約2.86回である。

### 3.3.2. 分析単位及び文字化の例

本研究の分析で用いられる発話の単位は宇佐美他(2019)の「基本的な文字化の原則」を参考に「ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるもの」を一つの発話として認めるが、述部が省略されているものや「途中終了型発話」などは、話者交替や間などを考慮した上で一つの発話であるか否かを判断する。告白の発話機能の判定方法の例は下記のように提示する。

発話資料[1] (ひ)

発話者	文字化の内容	告白の発話機能
1F	私じゃだめですか。	意向確認
2M	悪いけど俺好きなやついるから。	
3F	それでも、好きです。	好意伝達

発話資料[1]において女性は「私じゃだめですか」と相手の意向を確認する表現を用いた後、男性に断られるが、「それでも、好きです」と好意伝達をしている。

発話資料[2] (ア)

発話者	文字化の内容	告白の発話機能
1M	やっそこっち向いた。	
2M	吉岡さんが向いているほうが前向き。それでいいじゃん。	
3M	作ったりしなくていいと思うよ。	

7) 一つの発話文に複数の発話機能が付与される場合もある。



4M	目の前に、そのままの吉岡さんがいいっていう奴がいるんだから。	状況説明
5M	<少し間> 俺は、吉岡さんのことが好きだってこと。	好意伝達
6F	え？あ、でも、あたし、菊池君のことよく知らない>{<,}	
7M	<今日>{>}から知るんでいいよ。	折り合い
8M	自分でゆっちゃうけど、俺、かなりおすすめだから。	メリット提示

発話資料[2]において男性は「そのままの吉岡さんがいいっていう奴がいる」と、自分の状況を説明した後、「吉岡さんのことが好きだってこと」と好意を伝達している。さらに、女性の「菊池君のことよく知らない」という発話に割り込み、「今日から知るんでいいよ」と妥協を求めているような「折り合い」表現を用いた後、「俺、かなりおすすめだから」と「メリット提示」をしている。

また、発話資料[3]のように一つの発話文に複数の発話機能が付与される場合もある。

発話資料[3] (赤)

発話者	文字化の内容	告白の発話機能
10M	俺さ、(a)メイのそばにずっといたいし、(b)メイになんかあったら必ず守ってやる。	(a)願望 (b)メリット提示

## 4. 結果及び考察

### 4.1. 告白場面における発話機能の使用様相

男女の告白場面における発話機能の使用様相は以下〈表4〉のように示す。

〈表4〉 男女の告白場面の発話機能別にみる使用様相

告白の発話機能		男性	女性
単純型	a.好意伝達	23.33%(28)	37.73%(40)
	b.交際申し込み	10%(12)	1.88%(2)
機能型	a.理由説明	5.83%(7)	4.71%(5)
	b.状況説明	15%(18)	18.86%(20)
	c.意向確認	10.83%(13)	13.20%(14)
	d.通告	0	3.77%(4)
	e.願望	4.16%(5)	2.83%(3)

	f.折り合い	12.5%(15)	9.43%(10)
	g.メリット提示	10%(12)	1.88%(2)
	h.要求	8.33%(10)	5.66%(6)
	合計	100%(120)	100%(106)

告白場面における告白の発話機能についての男女差を考察した結果、〈表4〉のように男性は「好意伝達」「状況説明」「折り合い」「意向確認」「交際申し込み・メリット提示」「要求」「理由説明」「願望」の順に、女性は「好意伝達」「状況説明」「意向確認」「折り合い」「要求」「理由説明」「通告」「願望」「交際申し込み・メリット提示」の順に多く現れた。

まず、男女とも告白をする際には、「好意伝達」表現を最も多く使用していることが分かる。樋口他(2001)は、状況や性別を問わず「単純型」の告白をすることで、もっとも関係が発展しやすいことをアンケート調査を用いて明らかにしたが、告白の際には「好き」という気持ちを相手に簡潔に伝えることが最も好まれる方式であることが本研究においても窺えた。

「好意伝達」の次に多く現れたのは「状況説明」で、相手に心境や心理状態を述べることで気持ちを分かってもらい、相手が好意を受け入れてくれることを望む戦略である。そして、「状況説明」の割合に関しては、男性15%、女性18.86%と、女性に若干多く現れている。金智媛(2020)は恋人間の依頼表現において日韓とも女性に「情意表出型」が多く使用されたことから、自分の感情や考えを冗長に述べることは女性の言語表現の特徴であると指摘しているが、告白場面においても女性は情意を表出することで好意を伝える傾向が見られると言える。

さらに、最も大きな特徴として挙げられるのは、「交際申し込み」と「メリット提示」の使用頻度における男女差である。「交際申し込み」は男性に10%現れているが、女性は1.88%に過ぎず、女性は告白場面であっても関係の転換となる交際申し込み表現はあまり用いられないことが分かる。さらに、「メリット提示」は男性に10%現れているが、女性は1.88%に過ぎないことから、男性は相手を得られる特典の提示や自己アピールをすることで相手が好意を受け入れてくれることを促す戦略を使用していることが分かる。「折り合い」表現においても女性(9.43%)より男性(12.5%)に若干多く使用されていることから、男性は相手に妥協や交渉を求めながら好意を受け入れてもらうために様々な工夫をしていることが窺える。一方、「好意伝達」は女性に37.73%も現れており、告白場面において女性は「好意伝達」表現を多用していることが分かる。

最後に、「要求」は女性(5.66%)より男性(8.33%)に若干多く使用されているが、「通

報」は女性(3.77%)のみに現れている。命令形などを用い、告白者との親密な関係を強いるような要求表現は男性に、相手に意向を問わず付き合うことを決めてしまう一方的な態度を取るの女性に見られた。

以上のようなことから、恋愛の告白場面においては、使用されている発話機能の割合に男女差が見られ、ジェンダー化された性役割が作用していることが窺える。

## 4.2. 用例分析

### 4.2.1. 単純型

#### a. 好意伝達

「好意伝達」は「好きです」など好意を表す表現である。例(1)(2)のように簡潔で明確に気持を伝える発話が男女ともに現れた。大森(2014)は現代の日本の若者たちの恋愛意識について「付き合う」関係には「好き」という感情が伴わなければならないという恋愛規範が意識されていると指摘しているが、必ずしも交際申し込み表現との併用が見られなくても、「好き」という感情を伝えることが恋愛開始において重要であることが分かる。しかし、例(3)(4)のように「気が変になるぐらいに好き」「特別に好き」など、好きな気持ちを強く強調するような表現は女性のみに見られた。鈴木(2008)は、女性は自分の感情を主観的に捉え、引き起こされた感情をそのまま直接的に表現すると述べているが、告白場面においてもこのような傾向が見られたと言える。

(1)竹本(M)：はぐちゃんのこと好きだよ。(ハ)

(2)胡桃沢(F)：あたし、風早が好き。(君)

(3)福島(F)：あたし、蓮実さんのことが好き。気が変になるぐらいに好き。(き)

(4)るみ子(F)：大好き。特別に好き。(モ)

#### b. 交際申し込み

「交際申し込み」は男性10%、女性1.88%で、「付き合ってください」のような交際申請はほとんど男性から行われている。好意を伝える場面であっても女性から交際を申し込み表現はほとんど見られず、恋愛開始において重要な表現となる交際申請は男性に委ねてしまい、恋愛の開始は男性からという、ジェンダー化された性役割が見られると言える。これは「好意表明表現」は女性が、「交際申請表現」は男性が多く使用しているという関・李(2013)のアンケート調査の結果と一致する。また、例(5)(6)のように、交際申し込み表現

が単独に使われるより、「意向確認」や「好意伝達」表現を述べた後に交際申請が行われる例文が多く見られた。他にも、「理由説明」(一目ぼれしちゃった)や「折り合い」(試験に受かったら)など、突然交際を申し込むより、相手から交際の承諾を得るための様々なストラテジーとの併用が見られた。

(5)練(M)：(中略)でもう俺だけを見てくれないかな？付き合おう。(い)

(6)慎吾(M)：俺、浅田さんのこと好きだよ。(中略)だから、俺と付き合っ。(エ)

#### 4.2.2. 機能型

##### a. 理由説明

「理由説明」は、好きになった理由やどんな点に好意を持ったかなど、好きな理由や告白する理由を述べる表現である。女性は例(7)(8)のように相手のことを「すごい人」「尊敬できる」と表現するなど、相手の能力を褒める傾向が見られ、男性は例(9)(10)のように「惚れた」など、相手の魅力を強調する傾向が見られた。金政他(2001)が行った調査においては、「異性への好意の理由」について女性は相手の内面的な望ましさを挙げており、男性は外見的魅力を挙げる傾向があったと指摘しているが<sup>8)</sup>、恋愛において男性は能力や人柄が、女性は外見や魅力が求められていることが言える。

(7)橋(F)：店長はすごい人です。本に詳しいし、小説も書けるし。(恋1)

(8)わかな(F)：私はタクヤ君を見てていいとも見れたし、人間らしい姿も見てきて、尊敬できるところもあるし男らしくてかっこいいなって思うところもあって(中略)(恋4)

(9)真一(M)：俺は絵夢のそゆうところに惚れたんだけどな。(L1)

(10)深見(M)：君に一目惚れしたんだ。(コ)

##### b. 状況説明

「状況説明」は告白者の心境や情意を表す表現である。例(11)から(14)は「好意伝達」または「交際申し込み」の前に出た発話であるが、その用い方に男女差が見られた。女性は例(11)(12)のように、告白する前に「前置き」として「状況説明」を多く用いたが、男性は例(13)(14)のように、「状況説明」においても好きな気持ちをアピールする

8) 金政他(2001)は178名の回答者に「恋愛とは何か」及び「異性への好意の理由」を自由記述の形で回答してもらい、その回答について分類・カテゴリー化を行った。

場合が多く現れた。このことから、男性のほうが告白においてより積極的に好意を表していることが窺える。

- (11) えれな(F) : よく知りもしないのに、自分でも変だなんて思いますけど。(失)  
 (12) ノニ(F) : キラ君に心動かされている理由は何なのか最近分かったんです。(きょう)  
 (13) オリビエ(M) : 勝手にキスしたこと謝るよ。でも、好きになったことは謝らない。(失)  
 (14) 海(M) : 俺は好きな人には、いつでも毎日会いたいけどな。(好)<sup>9)</sup>

### c. 意向確認

「意向確認」は相手に許可を求めたり、現在の状況を確認したりしながら相手の意向を問う表現である。男性より女性に若干多く使用されていることから、女性は疑問形を用いて望みを伝えたり相手に判断を求めたりする傾向が見られると言える。Lakoff(1975)は付加疑問文や高いイントネーションなどの疑問形の使用は女性語の特徴であると述べており、好意を伝える告白場面だけでなく、怒りの感情やけなし表現の表出においても女性は疑問文をたくさん用いる特徴があることが報告されている(김지원2019、林始恩2016)。

用例を考察すると、男女とも「俺じゃだめですか」「私じゃだめですか」などの形で使われる例が最も多く見られた。さらに、男性は例(15)(16)のように「授受型」を用いながら交際を願う内容が込められた形で「意向確認」発話が現れたが、女性は例(17)(18)のように相手に具体的な答えを求めるような形で現れた。

- (15) 真一(M) : こんな僕と一緒にいてくれますか。(L1)<sup>10)</sup>  
 (16) 練(M) : もう俺だけを見てくれないかな?(い)<sup>11)</sup>  
 (17) 月城(F) : 先生にとって私は何なんですか。(文)  
 (18) 橘(F) : 私が店長のこと好きなのは迷惑ですか。(恋1)

### d. 通告

「通告」は相手の意見を聞かずに付き合うことを決めてしまう表現で、女性のみに見れ

9) 告白者の心境を述べている点で「状況説明」表現であると言える。「たい」「ほしい」などの形で発話が終わる形式を用いながら相手に望むことを伝える「願望」表現とは異なる。

10) 「付き合ってください」のような交際のフレーズが明確に表れる「交際申込み」表現とは異なり、相手に意向を伺っているため「意向確認」表現である。

11) 文末に「命令形」を用いる「要求」表現とは異なり、相手に意向を伺っているため「意向確認」表現である。

た。例(19)(20)のように一方的な態度を取ったり抱負を語ったりする発話が見られた。

(19)理央(F)：あたしが先生の彼女になるよ。(天)

(20)沢部椿(F)：(中略)だから、だからあんたは、私と恋をするしかないの。(四)

#### e. 願望

「願望」は相手への希望や願望を伝えることで、告白者の望んでいることや相手に望むことなどを明示する表現である。「俺の彼女になってほしい」「ちゃんと答えてほしい」など、交際を求めたり相手の気持ちを確かめたりする形で現れることが多く見られたが、例(21)(22)のように、相手との距離の近さを強調することで好意を伝える発話も見られた。

(21)かいり(M)：俺、何番でもいいから、ももちゃんのそばにいたい。(ピ2)

(22)わかな(F)：私であればこれからも一緒にいたいと思っています。(恋4)

#### f. 折り合い

「折り合い」は相手に妥協を求めることで交渉したり負担を軽減したりするための表現である。例(23)のように、自分のことを下げて謙遜な態度を取る表現は女性のみ、例(24)のように、包容力のある態度を見せるような表現は男性のみに現れた。

(23)もも(F)：私なんかタイプじゃないって分かってるけど…。(ピ2)

(24)優(M)：いろんな気持ち、全部抱えたままでいいから、俺んとこ来い。(恋2)

#### g. メリット提示

「メリット提示」は相手に自分の長所をアピールしたり、告白を受け入れた場合相手が得られる利益や特典などを提示したりすることで好意を受け入れることを促す表現である。男性に10%現れたが、女性は1.88%に過ぎず、男性に多く用いられた表現である。例(25)(26)のように交際を受け入れてくれたら女性を守ること、また、女性の味方になることを宣言する表現で現れた。

(25)望月(M)：俺だったら大事にする。(文)

(26)練(M)：俺は最後までそこにいますよ。(中略)俺は杉原さんのところにいます。(い)

## h. 要求

「要求」は文末に命令形などを用い、告白者の要求を受け入れることを促す表現である。例(27)(28)のように、男性は文末に「-なよ」「-ちまえ」などの表現を用いる、強い命令口調が多く見られたが、それに比べて女性は、例(29)(30)のように「-て」型を用いることが多く見られた。「-て」は「話し手」のために、ある行為をするよう依頼する表現であることが指摘されているが(김종아, 2012)、女性は男性に甘えるような態度で要求表現を用い、好意を表していることが窺える。

(27)井吹(M)：僕を好きになりなよ。(い)

(28)大和(M)：訳分かんなくなってめちやくちゃになっちまえ。(好)<sup>12)</sup>

(29)福島(F)：一度でいいからあたしを抱いて。(き)

(30)絵瑠(F)：啓行かないで。私啓のこと大好きだよ。だからずっとそばにいてよ。(L2)

## 5. おわりに

本研究は日本人の男女が対面する告白場面において、どのような表現を用いて相手に好意を伝えるか、好意伝達の戦略に性差が表れるかなどを分析した。その結果、告白場面において女性は「好意伝達」表現を多用しており、好意を伝える場面であっても女性からの交際申請表現はほとんど見られなかった。恋愛開始において重要な表現となる「交際申し込み」はほとんど男性から行われていることから、告白においてジェンダー化された性役割が見られた。男性は相手からの承諾を得るために様々な戦略を用いており、例文の考察から男性は包容力を見せたりや女性を守ることを宣言したりするなど、男らしさをアピールする態度を取っていることが垣間見られた。さらに、謙遜な態度を取ったり相手に甘えたりしながら好意を受け入れてくれることを促す表現は女性に見られた。

今回は恋愛の開始において重要な表現となる告白発話のみを考察したが、恋愛中に交わされる恋人間の談話にも性差が見られるか比較するために、恋人間の談話を分析する必要性も窺えた。加えて、告白者の年代や職業、結婚願望の有無、告白された人の反応による戦略の使用の違いなどまでは考慮することができなかったため、今後の課題とし

12) 恋愛を始めるのが怖いという女性の発話に対して、好きにならないと何も始まらないと説得している場面である。

たい。また、男女差をより明確にするためには統計検証に基づいた解釈が今後必要と考えられる。

### 【参考文献】

- 김정영, 이성민, 이소은(2014) 「나의 성장과 경험으로서 연애의 재구성」 『미디어, 젠더 & 문화』 29(3), 한국여성커뮤니케이션학회, pp.45-81.
- 김종아(2012) 「일본어의외표현에 대한 화용론적 고찰」 『일본문화학보』 53, 한국일본문화학회, pp.29-42.
- 김지원(2019) 「일본인 남녀의 분노 표출 양상에 대한 연구-다툼 장면의 분석을 통하여」 『日本文化学報』 82, 한국일본문화학회, pp.83-101. (DOI: <https://DOI.org/10.21481/jbunka..82.201908>)
- 泉子・メイナード(2001) 『恋するふたりの感情ことば』 くろしお出版, pp.12-17, 225-262.
- 石川英夫(1994) 「大学生の恋愛観」 『東京経済大学人文自然科学論集』 98, 東京経済大学, pp.53-79.
- 宇佐美他(2019) 「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese:BTJS)」 2019年改訂版, 国立国語研究所.
- 大森美佐(2014) 「若者たちにとって「恋愛」とは何か-フォーカス・グループディスカッションによる分析から-」 『家族研究年報』 39, 家族問題研究学会, pp.109-127. (DOI: <https://doi.org/10.14965/afs.39.109>)
- 金政裕司・谷口淳一・石森真徳(2001) 「恋愛のイメージと好意理由に及ぼす異性関係と性別の影響」 『対人社会心理学研究』 1, pp.147-158. (DOI: [info:doi/10.18910/11688](https://doi.org/10.18910/11688))
- 関陽子・李相沃(2013) 「好意の伝達としての「告白」方略分析」 『日本語文学』 62, 日本語文学会, pp.51-72.
- 元智恩(2017) 「日韓の恋愛における告白の言語行動」 『日本語文学』 78, 한국일본어문학회, pp.61-78. (DOI: <http://dx.doi.org/10.21792/trijpn.2017..78.004>)
- 金智媛(2020) 「依頼表現の性差に関する日韓対照研究-恋人間の会話を中心に-」 『日本学報』 122, 한국일본학회, pp.19-36. (DOI: <https://doi.org/10.15532/kaja.2020.02.122.19>)
- 金水敏(2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店.
- 栗林克匡(2002) 「恋愛における告白の状況と個人差(シャイネス・社会的スキル)に関する研究」 『北星論集』 39, pp.11-19.
- \_\_\_\_\_ (2017) 「異性の行動から自分への好意をどの程度感じるかソーシャルスキルと自尊感情の影響」 『北星学園大学社会福祉学部北星論集』 54, pp.66-74.
- 迫田亜希子・孫朱彦・申諭註・刘森・林貞我(2019) 「日韓メディアにおける男性の告白の発話類型に関する一考察」 高麗大学の大学院授業「日本語学情報研究2」のグループ研究会.
- 鈴木麻理(2008) 「感情表現の男女差」 『東京女子大学言語文化研究』 17, 東京女子大学, pp.39-50.
- 高坂康雅(2009) 「青年期における容姿・容貌に対する劣性を認知したときに生じる勘定と反応行動との関連」 『教育心理学研究』 57, pp.1-12.
- 樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博己(2001) 「恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方策の効



- 果」『広島大学心理学研究』1、広島大学大学院教育学研究科、pp.53-68.
- 松井豊(1990)「青年の恋愛行動の構造」『心理学評論』33、心理学評論刊行会、pp.355-370.
- 松村明(2006)『大辞林 第三版』三省堂、p.2707.
- 山田晶弘(1991)「現代大学生の恋愛意識-『恋愛』概念の主観的定義をめぐって」『昭和大学教養学部紀要』22、昭和大学紀要編集委員会、pp.29-39.
- 林始恩(2016)「日本語の友人同士の話におけるけなし行動について-性別による違いに注目して-」『일본언어문화』36、한국일본언어문화학회、pp.61-78. (DOI: <http://dx.doi.org/10.17314/jjlc.2016..36.003>)
- Barlow, D(1977) A heterosocial skills behavior checklist for males. Behavior Therapy, 8, pp.229-239.
- Levinger, G(1983) Development and change, Close relationship. San Francisco : Freeman, pp.315-359.
- Lakoff, R(1975) Language and Woman's Place, New York: Harper and Row, pp.143-148.

논문 투고 일자 : 2020. 05. 29.
논문 심사 일자 : 2020. 07. 20.
게재 확정 일자 : 2020. 07. 24.

---

 < 要旨 >
 

---

 好意伝達表現の男女差に関する考察  
 -告白場面に見られる発話機能を中心に-

金智媛

本稿は日本人の男女が対面する告白場面において、どのような表現を用いて相手に好意を伝えるか、好意伝達のストラテジーに性差が表れるかなどを分析した。告白に用いられる発話を機能別に分類した結果、「単純型」は「好意表現」と「交際申し込み」の2つに、「機能型」は「理由説明」「状況説明」「意向確認」「通告」「願望」「折り合い」「メリット提示」「要求」の8つに分類することができた。

男女差を考察した結果、男性は「好意伝達」「状況説明」「折り合い」「意向確認」「交際申し込み、メリット提示」「要求」「理由説明」「願望」の順に、女性は「好意伝達」「状況説明」「意向確認」「折り合い」「要求」「理由説明」「通告」「願望」「交際申し込み、メリット提示」の順に多く現れた。また、告白場面において女性は「好意伝達」表現を多用しており、好意を伝える場面であっても女性からの交際申請表現はほとんど見られなかった。恋愛開始において重要な表現となる「交際申し込み」はほとんど男性から行われていることから、告白においてジェンダー化された性役割が見られた。また、「折り合い」や「メリット提示」表現はほとんど男性に現れたことから、男性は相手からの承諾を得るために様々なストラテジーを用いており、例文の考察から包容力を見せたり女性を守ることを宣言したりするなど、男性は男らしさをアピールする態度を取っていることが垣間見られた。さらに、謙遜な態度を取ったり相手に甘えたりしながら好意を受け入れてくれることを促す表現は、女性に多く現れた。

 A study on gender differences in showing affection  
 -speech functions in love confession in the movie & drama scenes-

Kim, Ji-Won

This paper is concerned with Japanese verbal expressions that show one's feelings of love especially in love confessions between men and women. This study analyzes how people express their affectionate emotions and if the strategies used for showing affection differ between the genders. Findings indicate that Japanese men and women employ several strategies of expression. Men seem to use showing affection, situation explanation, compromising, confirming the feeling, asking-out, suggesting merits, demand, reason explanation, and wishing, while women seem to use showing affection, situation explanation, confirming the feeling, compromising, demand, situation explanation, unilateral notification, wishing, asking-out, and suggesting merits. Although Japanese women usually express their love through showing affection, we found that they rarely make the first move in asking somebody out. To ask somebody out signifies the beginning of the dating relationship and this is predominantly led by men. This may be the effect of a gender stereotype that is realized in the form of a gender role. Among the strategies mentioned above, men usually act by compromising and suggesting merits. They use various strategies that are likely to elicit a positive response from women. As a result of investigating examples in this paper, it was found that the attributes of men, such as broad-mindedness and willingness to protect a woman, have a masculine appeal.